

VOL. 43

Dwing

ディー・ウィング

特集 お仕事のヒント

介護現場の安全性を 向上させよう



今回の“こんにちは”では、東京都足立区の特別養護老人ホーム「ピオーネ西新井」さん、徳島県阿南市の特別養護老人ホーム「阿南荘」さんに取材をいたしました。

特別養護老人ホーム

ピオーネ西新井

長く白十字製品をお使いいただいているピオーネ西新井さん。排泄褥瘡委員会の委員長、大山始さんからおむつ交換のサイクルについて見直しの相談をいただき、PU サルバ安心Wフィット高吸収テープのみを活用して夜間パッドを使わずに安眠を確保するご提案をしました。

「従来は明け方の4時に交換をしていたのですが、起床時間が6時のためおむつ交換で起きてそのまま起床時間を迎える方もいらっしゃいました。そうすると昼間に眠ってしまうことも多く、夜間ぐっすり眠れなくなり、というような悪循環になっていると感じていました。そこで安心Wフィット高吸収テープを使って4時の交換をなくすことにしました」大山さんは不安そうにする職員たちに「まずは思い切って一回やってみよう！」と背中を押し、推進していったそうです。「何より心配していたのが皮膚トラブルですが、交換を減らした結果、トラブルの予防に対してより強く意識が向くようになりました。ちょっとした変化に気がつくようになったこと、これは想定していなかった効果でした」さらに夜間ぐっすり眠れることで、昼間の活動量もアップ。夜間帯のスタッフに時間的な余裕が生まれたことも大きいようです。



スタッフ写真

交換サイクル見直しから個別ケアへ

「今回の見直しの前も個別ケアの取り組みは行っていましたが、ご利用者さんそれぞれで使用するパッドを変えるといったやり方でした。そのためパッドの種類ばかり増えてしまい、在庫の管理も大変でした。交換サイクルの見直しに合わせてパッドの種類も大幅に減らし、交換のタイミングや回数を個別に対応するように変えたのです」基本の交換サイクルは一日4回とするものの一律ではなく、5回の方もいれば2回交換の方もいるといった具合です。最適なケアを見つけるためにまず一人一人の尿量をチェックして、漏れの発生や場所、量などのデータを取りました。その結果を元に話し合い、個別の対応を決めていったそうです。白十字としてもおむつのあて方勉強会を開催するなどして、サポートいたしました。「交換回数を減らそう、という提案をすると『楽をしたいだけなのではないか?』という声が上がりがちです。ここをどう覆すか、ということのを特に考えました。夜間の十分な睡眠が生体リズムを整えることにつながるとい、白十字さんからの提案資料と、看護師も巻き込んで皮膚トラブルの予防に対する準備などを整えながら、最後は多少強引だったと思いますが、強い意志を持って進めていきました」それと同時に「減らすことが目的化しない、目的は安眠確保と個別ケアの実現」そこがブレないように注意したといいます。

次年度は褥瘡管理加算に取り組み、自立支援の講習を施設内でやる予定もしておられるとか。今後もよりよいケアの実現への取り組みに向け、白十字としてもご支援していきたいと思っています。



特別養護老人ホーム

阿南荘

徳島県阿南市にある特別養護老人ホーム「阿南荘」さん。平成21年に、3フロア12ユニットからなる142床（うちショートステイ20床）にリニューアルしてから、15年目になります。「ユニットケアを導入したことで、担当以外のユニットの入所者さんを介護する機会は減ります。それによって様々な介護の事例を経験することができず、ユニット間で経験値にばらつきが出ることを懸念していました。そこで、事例を共有してスキルを統一することを目的に、研修会を始めました」と研修会の経緯を説明してくださったのは助石施設長。月に2回の研修会は、1回は全職員が、もう1回は介護職員を対象として開催されてきたそうです。「排泄や感染などのテーマを出し、全員が参加する形で実施してきたのですが、コロナ禍になって開催が難しくなりました。そんな時に白十字さんにオンラインでの勉強会が出来ないか、相談したのです。2020年の終わりごろだったと思います」杉本介護主任が中心となり、白十字のアドバイザーと内容を固めました。



まず始めたのが、対応が難しい方の事例を事前に挙げていただいて、オンラインで一人ずつの対応策を伝えるという形でした。ユニットリーダーを対象に、2～3カ月ほどかけて実施。相談会を進めるうちに、紙おむつのあて方についての研修が必要という話になり、あて方の研修会を開催することになりました。第一期として手始めに、高齢者の排せつの特徴と基本的なあて方を月に1回、半年間でほぼ全ての介護職員が参加できるように進めました。続く第二期ではおむつ内環境についてお話しをし、第三期を迎えた2023年の8月、ようやく対面での研修会を開催することが出来ました。フロアごとに抽出した困難事例について、個別に解決方法を紹介しました。「例えば、テープを止める角度を変えるだけでモレが減り、立体ギャザーの立て方、吸収体の位置でも変化する、そういったあて方の技術について教えてもらいました。研修を受けた方たちは、目に見えてあて方が変わりました。漏れないあて方を習得し、トラブルも減っていききました」杉本介護主任によれば、特に対面の研修が始まって以降、あて方の理解が大きく進んだと感じておられるそうです。

阿南荘さんではクラブ活動にも積極的に取り組んでおり、数あるクラブの中に「阿波踊り体操」があるそうです。鉦（かね）と太鼓は阿波踊りで使う実際のものを使い、コロナ禍前は愛好会のボランティアの方が来ていましたが、現在は職員が担当します。盛り上がりが出てくると入所者さんも鉦をたたき、その様子を動画に撮ってLINEなどでご家族に送っているそうです。まだ面接にも制限がある現状ですが、SNSやデジタルツールをうまく活用している阿南荘さん。今年から始められたInstagramも、チェックしてみたいと思います。



阿波踊り体操の様子をLINEでお届け

阿南荘さんではクラブ活動にも積極的に取り組んでおり、数あるクラブの中に「阿波踊り体操」があるそうです。鉦（かね）と太鼓は阿波踊りで使う実際のものを使い、コロナ禍前は愛好会のボランティアの方が来ていましたが、現在は職員が担当します。盛り上がりが出てくると入所者さんも鉦をたたき、その様子を動画に撮ってLINEなどでご家族に送っているそうです。まだ面接にも制限がある現状ですが、SNSやデジタルツールをうまく活用している阿南荘さん。今年から始められたInstagramも、チェックしてみたいと思います。

この人に
聞く!

仕事の

ヒント

第26回

介護現場の安全性を 向上させよう

Point 1

標準的な手順や
ルールを作り、
共有・遵守する

Point 2

環境整備
(5S 活動など)で
安全性を向上させる

Point 3

リスク低減への
取り組みを継続する

ベッドや車いすからの転落や転倒による骨折・打撲、飲食による誤嚥や窒息など、
介護現場は様々なリスクが起こりやすいところです。
介護現場の安全管理は、リスクを低減し、利用者さんが安心して過ごすために欠かせません。
そこで、安全管理の専門家として医療安全に取り組んできた河野龍太郎さんに、
介護現場の安全を高めるためのヒントをうかがいました。



介護現場でのリスクマネジメントとは？

リスクを可能な限り 低減する

一介護現場での安全管理への取り組みについてどのような考えで臨めばよいですか

介護現場では、介護スタッフがどんなに注意していても起こる事故があるし、利用者さんが自らの身体能力の低下を自覚していないため、あるいは認知症による想定外の行動で引き起こされる事故もあります。これが介護における安全管理の難しい点です。ですから、介護における安全管理では「利用者さんの安全」と「介護スタッフの安全」の両方を考える必要があります。

一利用者さんだけではなく、介護スタッフの安全という視点も必要なのですね

働く人の安全を守ることも安全管理の重要な要素です。スタッフ自身がヒューマンエラー（人の行った判断や行動によって引き起こされるミスや失敗、事故）を起こさない、けがをしない、事故に巻き込まれないために、環境整備や教育など、できることはたくさんあります。

一ヒューマンエラーはどうすればなくせるのでしょうか

まず理解していただきたいのは、ヒューマンエラーはゼロにはならないということです。また、安全は存在しないということを理解してください。ISO（国際標準化機構）では「安全とは、受容できないリスクがないこと」と定義しています。つまり「リスクを許容できるまで低減させた状態」です。絶対的な安全はなく、非常にリスクの低い状態を私た

ちは安全と呼んでいるという認識からスタートすることが重要なのです。

一ヒューマンエラーのリスクを低減させるにはどうしたらよいのでしょうか

リスクマネジメントの基本は「発生防止と拡大防止」です。まず、発生防止のために介護スタッフのヒューマンエラーを減らす対策を立てます。さらに、起こっても「利用者さんの被害を可能な限り小さくする」という視点で拡大防止対策を考えます。そのためには、様々な介護場面における具体的手順

やルールを作成して共有する必要があります。それらにのっとって着実に行えばリスクを低減できるとともに、介護スタッフ自身も「今はリスクの低い状態にある」と確認することができます。

一介護現場では、ヒヤリハット事例を集めてリスク回避に努めています

現場で何が起こっているのかを把握するために、ヒヤリハットも含めた事故事例を集めて分析することはヒューマンエラー対策にとって重要です。事故につながった要因や条件などを見つけることができれば、具体的な対策を立てることができます。

図1 組織全体で取り組む「5S活動」





介護現場でできる安全性向上のための取り組み

5S 活動

—具体的にどんなことから取り組んでいけばいいですか

リスク低減のための基本的な取り組みとして、「5S 活動」をお勧めします。もともと製造業で始まったもので「整理・整頓・清掃・清潔・躰（習慣化）」の頭文字の S を取って 5S 活動と呼ばれ、これらの項目を徹底させることで業務やサービスの質の改善を図ります（図 1・表 1）。

—なぜ 5S 活動が推奨されるのでしょうか

活動自体が分かりやすく、業務やサービスの質の改善手法として最も広く利用されている実績があるからです。今では、医療の分野でも 5S 活動は医療安全の基本として定着してきています。職場環境の改善や、決められたことを決められた通りに実行する習慣化によって、スタッフのヒューマンエラーの低減や利用者さんの事故防止、作業効率の改善などが期待できます（表 2）。

表 2 5S 活動の効果（病院版）

直接的効果	内容
職員のヒューマンエラーの低減	職場環境の改善、決められたことを決められた通りに実行することが身につく
患者の事故防止	通路の確保、表示の明確化、不完全箇所の改善
モノを探すムダの削減	時間の削減、労力の削減、作業の効率化
スペースの有効活用	在庫の見直し、経費の削減
職員・患者満足度の向上	病院・病室が清潔、職員の対応が良い、作業効率の向上、リスクの低減

■ 5S 活動は掃除をするという表層的なものではなく、利用者さんの事故防止につながる活動です。例えば、清掃することで床にネジが落ちているのを見つけたら、車椅子を点検して不具合に気づくことができます。また、5S 活動による環境整備では、出入口に段差はないか、ドア周りは安全か、表示はわかりやすいか、送迎車両内は整理整頓されているかなどについてもチェックし、安全なケア環境を作る必要があります。

■ 医療では、患者さんの安全を守り、患者さんと医療者がともに安心して治療やケアに専念できる医療環境づく

表 1 5S とは

5S	定 義
整理	いるものといらないものをハッキリ分けて、いらないものを捨てること
整頓	いるものを使いやすいようにきちんと置き、誰でもわかるように明示すること
清掃	常に掃除をし、きれいにすること
清潔	整理・整頓・清掃の 3S を維持すること
しつけ 躰（習慣化）	決められたことを、いつも正しく守る習慣づけのこと（あいさつ、身だしなみも含む）

—どのような体制で進めたらよいですか

5S 活動はスタッフの全員参加が前提です。また、幹部や管理職のリーダーシップ、そして施設のトップが介護における安全対策に本気で取り組むことを自ら示すことが最も重要です。トップの理解なしでは、安全対策はなかなか進みません。

【5S 活動の進め方】

- ①目的や意義を確認し、推進体制を作り、5S 活動委員を選定する
- ②年間スケジュールを立てる
- ③活動場所を定点撮影して改善前後を比較し、進捗を確認、成果を共有する

リスクを下げる取り組みを継続しよう

—介護現場の安全性向上のために、大切なことを教えてください

私たちにできるのは、1 つでも少しでもリスクを下げる取り組みを実行することです。5S 活動やヒヤリハット・事象事例の分析を行い、不明確な手順・ルールを整理検討して標準手順・ルールを作る、さらにその検証を重ねて結果をフィードバックし、手順・ルールを改善していく。これらを繰り返して安全性を向上させる取り組みを続けることが必要です。

Message

介護の安全性向上のために、地域レベルで連携しよう



河野 龍太郎さん

株式会社 安全推進研究所
代表取締役所長

自治医科大学名誉教授

【かわの・りゅうたろう】国土交通省航空局東京航空交通管制部、東京電力を経て 2007 年より自治医科大学医学部メディカルシミュレーションセンター勤務（センター長、医療安全学教授）。2018 年より現職。航空、原子力、医療、交通、製造システムなどのリスク管理および事故におけるヒューマンファクター問題を研究。近著に『医療現場のヒューマンエラー対策ブック ～人間の行動モデルをベースとしたヒューマンエラー対策シート～』日本能率協会マネジメントセンター（2018 年）

※河野氏の Youtube チャンネル「医療安全推進支援室」▶



しっかり安眠!



これ1枚で安心の吸収性能

飽和吸収量 2000ml

実質吸収量 1200ml

(一社) 日本衛生材料工業連合会の試験方法に基づく

当社試験方法に基づく



1枚でしっかり吸収し、
モレ・ムレにも安心です。
また白十字の特長である
「弱酸性素材」採用で
スキントラブルを
予防します。

誰でもあてやすく、モレにくい

モレの最大の要因は「伝いモレ」です。

白十字独自の構造「W フィット構造」は、2層の吸収体が
伝いモレを引き起こす「吸収体と尿道口のすきま」にぴったりフィット。

だれでも簡単に、モレにくいあて方が可能です。

すき間をなくしてモレを防止!



せきとめてモレを防ぐ
モレストップギャザー



一般的なテープ止めタイプ



安心 W フィット高吸収テープ

W フィット構造の働きで モレをブロック&軟便もキャッチ

2層の吸収体が、
尿道口と吸収体のすき間を埋めてモレを防ぎます。
便キャッチスペースで軟便もキャッチ!
軟便の外モレを防ぎます。



サルバ安心 W フィット
高吸収タイプを単体で使用



尿とりパッドを重ねて使用

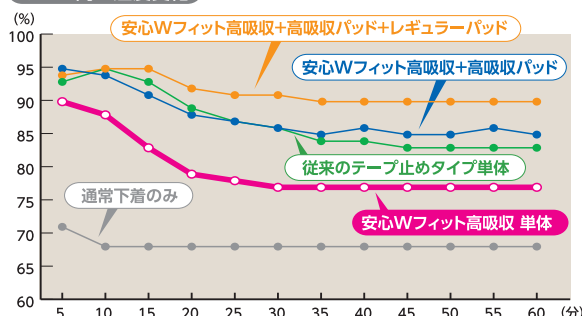
夜間安眠を促進

これ1枚で朝までぐっすり寝ていただくことで、
夜間多尿、昼夜逆転を正常に整えます。
「ケアの質の向上」とともに、特に業務負担の大きい
夜間帯の「現場の負担軽減」を実現します。

1枚使用でムレにくい

1枚使用にできることによって、
おむつ内の湿度上昇を抑えます。

おむつ内の湿度変化



(当社調べ) 室内温度 25℃・湿度 60%・おむつに 38℃の微温湯 450ml を吸収させて測定。
通常下着は乾燥状態での測定結果。



商品情報は
こちら



サイズ: S・M・M・M・L・L
実質吸収量: 1,200ml
飽和吸収量: 2,000ml